城西大学 Sports
夏季号
2013年 7月 vol.11
城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
発行所：〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1 城西大学

**記者募集**

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで ▶ josaisports@josai.ac.jp

硬式野球　首都大学野球春季リーグ戦

# 1部残留決めた

## 入れ替え戦 辛くも勝利

**4月13日から行われた首都大学野球春季リーグ戦で1部リーグ最下位となった硬式野球部は、2部優勝校の桜美林大学との入れ替え戦の末、1部残留を果たした。**

桜美林大との入れ替え戦で力投する直塚＝写真：首都大学野球連盟提供

「1部残留」の報告に来た硬式野球部の選手たちと、水田宗子理事長（後列右から7番目）ら大学関係者

春季リーグ戦では、主力選手が卒業しリーグ戦経験者が少ない状況で苦戦は予想されていた。常に紙一重の環境下での戦いを強いられることになった。結局、リーグ戦の勝利は筑波大戦の1勝のみ。いくつか勝ち星をあげられそうな試合もあったが11戦戦って勝ち点なしの結果になった。

5月19日の対帝京大戦、4回表に城西大は中村祥が死球で出塁し、犠打で進塁。橋本が四球を選び出塁し一死、二塁とする。続く平島は内野ゴロ、西廣は適時打を放ち1点をあげるも、相手に5回6回にそれぞれ1点ずつを取られる。この後、帝京大の先発投手に打ち取られ追加点ならず。これで城西大の1部リーグ最下位が決定した。

今回のリーグ戦は1点先取してしまえばチームの雰囲気は上昇気流に乗っていくが、相手に先取されてしまうと負けた雰囲気でズルズルと尾を引いて負けるという状況になっていた。「春季リーグを戦うには、攻撃を重視するよりも、守備に重きを置くことにした」と小原沢監督。一連のリーグ戦の後オープン戦を組み、3年生の直塚政哉投手を投入した。

## 直塚力投 桜美林抑える

2部の桜美林大学との入れ替え戦。直塚が大きな役割を担うことになる。

6月1日の初戦、相手の桜美林大に2回に1点を先制され、7回3点、8回1点と追加点を与えた。城西大は、結局9回の2点のみで敗戦。

続く2戦目、城西大が3回裏に先制の須郷が本塁打を放ち1点を先制、その後四死球等で走者を一、二塁に置き、暴投で二塁走者が本塁へ生還。これで2点。続く4回裏に4点を追加して大きなリードを得る。直塚が最終回まで120球を投げて桜美林大を0点に抑えた。

これで1勝1敗。そして3戦目だ。城西大は2回に二死満塁とし、押し出しにより1点を先制する。3回に2点、4回に1点と順調に点を積み重ねていくが、桜美林大に5回3点、9回1点と同点に追いつかれ延長戦へ。このあと双方5回まで無得点が続き試合が動いたのは16回表城西大の攻撃。昆目が四球を選び出塁すると、山口の適時二塁打等で勝ち越し点を挙げ、更に適時打や相手失策等で2点を追加して7点。16回裏の相手の攻撃をかわし、長い戦いの末に1部リーグ残留が決定した。

もちろん1部残留だからと言って浮かれていられない。今後は、11月の明治神宮大会を大きな目標に据えて、8月に関西遠征でのオープン戦でさらに力を付け、9月からの秋季リーグでの準備を進めていく。【久村洋介】

**入れ替え戦3戦目**

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 打 | 安 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 城西 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 | 7 | |
| 桜美林 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 | 4 | X |

■首都大学リーグと入れ替え戦

東海大学が新リーグの結成を呼びかけ、1964年6月、首都大学野球連盟が正式に発足、結成からわずか5年の1969年に東海大学が大学選手権で優勝、その実力が注目された。城西大はじめ加盟校は、大学野球の2大タイトルである全日本大学野球選手権大会と明治神宮野球大会においても実績を残し、現在では主要5大学リーグ（東京6大学野球・東都大学野球・首都大学野球・関西学生野球・関西6大学野球連盟）の一つとして数えられている。城西大学は、これまで1部リーグ優勝3回（春1回、秋2回）、2001年には明治神宮野球大会で準優勝している。

入れ替え戦は、リーグ戦の終了後に1部リーグの最下位校と2部リーグの優勝校との間で行われ、勝者チームは次シーズンに1部リーグに、敗者チームは2部リーグ所属となる。対戦方法は2戦先勝方式。ほとんどの大学野球連盟は、入れ替え戦方式を採用しているが、東京6大学は、早・慶・明・法・立教・東京大学の「固定メンバー」でリーグ戦を行っている。

**■位置 選手名 学年 所属**

| 位置 | 選手名 | 学年 | 所属 | 打 | 安 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 桜美林 | | | | | | |
| （右） | 寺田 | ④ | 横浜商大 | 8 | 3 | 1 |
| （二） | 山野辺 | ④ | 桐蔭学園 | 6 | 6 | 0 |
| 代打 | 五十嵐 | ③ | 横浜商大 | 1 | 0 | 0 |
| （捕） | 小笠原 | 4 | 桜美林 | 3 | 0 | 0 |
| 代打 | 増田大 | ③ | 向上 | 1 | 0 | 0 |
| （捕） | 白根 | 3 | 横浜商大 | 3 | 0 | 0 |
| （中） | 青山 | 4 | 日大藤沢 | 7 | 3 | 0 |
| （左） | 白岸 | ④ | 東海大相模 | 6 | 3 | 0 |
| （一） | 鈴木 | 3 | 桐光学園 | 5 | 1 | 0 |
| 打一 | 島崎 | ③ | 桜美林 | 2 | 0 | 0 |
| （三） | 石塚 | 4 | 鶴岡東 | 4 | 2 | 0 |
| （指） | 横山 | 4 | 桜美林 | 1 | 0 | 1 |
| 代打 | 高杉 | 4 | 東亜学園 | 1 | 1 | 1 |
| 走指 | 柳瀬 | ② | 桐蔭学園 | 0 | 0 | 0 |
| 打指 | 山元 | 4 | 日本大学 | 2 | 0 | 0 |
| （遊） | 後藤 | ③ | 鎌倉学園 | 6 | 1 | 1 |
| 合計 | | | | 56 | 14 | 4 |

| 投手 | 学年 | 所属 | 回 | 打 | 安 | 自 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 根岸 | ④ | 桜美林 | 3 | 18 | 3 | 3 |
| 河野 | 4 | 日本大学 | 6 | 25 | 4 | 0 |
| ●大沼 | 3 | 桜美林 | 6⅔ | 31 | 7 | 2 |
| 西崎 | ③ | 横浜商大 | 0⅓ | 1 | 0 | 0 |

| 位置 | 選手名 | 学年 | 所属 | 打 | 安 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 城西 | | | | | | |
| （左） | 村田 | ② | 聖望学園 | 9 | 3 | 1 |
| （中） | 田辺 | ④ | 北越 | 8 | 1 | 0 |
| （三） | 平島 | ③ | 柳川 | 7 | 2 | 0 |
| （指） | 橋本 | ② | 横浜 | 3 | 2 | 0 |
| 走指 | 石田 | ④ | 黒磯 | 0 | 0 | 0 |
| 打指 | 佐藤弘 | ③ | 豊川 | 3 | 0 | 0 |
| （捕） | 生井 | 2 | 常総学院 | 5 | 1 | 2 |
| （二） | 浅利 | ③ | 常総学院 | 4 | 0 | 0 |
| 二 | 荻原 | 3 | 丸子修学館 | 0 | 0 | 0 |
| 打二 | 矩目 | ① | 成立学園 | 1 | 0 | 0 |
| （一） | 西廣 | 4 | 京都外大西 | 8 | 4 | 0 |
| （遊） | 須郷 | ④ | 高崎 | 7 | 2 | 1 |
| （右） | 山口 | ④ | 日本学園 | 6 | 2 | 2 |
| 合計 | | | | 61 | 14 | 6 |

| 投手 | 学年 | 所属 | 回 | 打 | 安 | 自 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 増田優 | 3 | 八代東 | 4⅔ | 18 | 3 | 1 |
| ○直塚 | 3 | 豊川 | 11⅓ | 47 | 11 | 1 |

PS Pharmacy×Sport

身体機能維持に欠かせないビタミン　特徴理解し摂取しよう

ビタミンは、身体の機能を維持するために必要な微量栄養素だ。体内にとって必要不可欠である三大栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質が体内でエネルギーに変わるとき、筋肉や皮膚といった身体の構成成分に変わるときの変換の手助けをする。基本的にはビタミンは体内で作ることができない。ビタミンが不足すると三大栄養素を上手に変換できなくなるため、身体にいろいろな影響が出る。

現在、認められているビタミンは、13種類。その性質から、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの二つに分けられる。水溶性ビタミンは、水には溶けるが、油には溶けないので、汗や尿といった水分と共に体外に出やすい特性を持っている。このため欠乏しやすいこともあるが、反対に摂取しすぎ、ということについて心配する必要はない。

一方、油に溶けるが水には溶けない性質を持つ脂溶性ビタミンは、普段は体内に貯蔵されている。必要に応じて働くので欠乏はしづらい。脂溶性ビタミンに分類されるビタミンAとDは、必要以上に摂りすぎると、頭が痛くなったり、吐き気をもよおすことがあるため、注意が必要だ。

運動をする人に、ビタミンは欠かせない。特に、エネルギー代謝に関わるビタミンB群。糖質のエネルギー変換(代謝)を助けるビタミン$B_1$や、脂肪のエネルギー変換（代謝）を助けるビタミン$B_2$、たんぱく質のエネルギー変換（代謝）を助けるビタミン$B_6$が代表だ。こういったビタミンB群の必要とする量は、運動強度と相関して増加している。

これらのエネルギー変換には、コエンザイムQ10が深く関わっている。食事から摂取したビタミンを効率よくエネルギーに転換したいのであれば、ビタミンB群もしくはコエンザイムQ10を摂取するように心がけると良い。

また、ビタミンEも運動には欠かせない。血行促進作用があり、血液を介した酸素、栄養分の全身への供給が円滑よく行われるためだ。結果的に運動効率が高まり、有酸素運動を行うことによって、通常よりも多くの酸素が体内に取り込まれることになる。そして、体内の活性酸素の量が増える。これに対しては、抗酸化作用を持つビタミンC、ビタミンEなどのビタミンを積極的に摂取するように心がけるといいとされている。特にビタミンCは、運動をすることでどんどん消耗されるので、普段以上に摂取する必要がある。また、ビタミンCは喫煙によっても消耗されているので、運動をする人は喫煙を控えることが大切である。【小峯大輝】



## ソフトボール　インカレ予選

# 男女ともに出場権獲得

ソフトボールのインカレ予選が5月25、26日、茨城県で行われ、男女ともに好成績を収めインカレ出場を決めた。【野島慧】

男子は1回戦、文教大学との戦いだった。2回にヒットと犠飛で2点を先制され苦しい展開になった。しかし城西は4回に先頭の門馬（経済3）がホームランを放ち反撃し、さらに2本のヒットなどで満塁にした。1番佐々木（経営4）の打った打球はショートのエラーを誘い2点を挙げて逆転、ヒットが続きの1点を追加しこの回一挙4点を挙げた。更に5回に野島（現代政策3）のホームランで1点を追加した。文教大学は6回に1点を返すのがやっとだった。

2回戦は山梨学院大学との戦いだった。初回城西大学は1番弓間（現代政策3）の先頭打者ホームランなど5本の長短打を絡め、4点を先制した。さらに2回、5回、6回にもそれぞれ1点を挙げた。山梨学院大学は計3点にとどまり敗退。

この日2試合、14イニングを投げたエース黒沢（現代政策2）は三振を奪うなど抜群の安定感を見せた。

準決勝、決勝は前日にインカレ出場を決めた強者同士の戦いとなった。準決勝は東海大学との白熱した投手戦となった。城西大学は4回に3本のヒットで1点を先制しそれが決勝点となった。投げてはエース黒沢が7回を2安打6奪三振無失点の力投で勝利に貢献した。

決勝戦は春季リーグ戦で優勝した国際武道大学と対戦。初回国際武道大学は四球とヒットであっさりと先制した。城西大学は3回に3番鳥山（経営3）のホームランで同点。しかし、終盤6回に前日から力投を続けていた黒沢がつかまった。四球とエラーでランナーを溜め、相手の9番に3ランホームランを浴び た。城西大学は7回に1死後から3本の長短打で1点を返すのがやっとだった。決勝戦では敗れたが、2年ぶりにインカレの舞台に立てるとあって選手、マネージャーなどチーム一丸となって練習に取り組んでいる。

**女子 初戦は城西国際と**

女子は男子よりも1チーム多い5チームがインカレに出場できる。予選の初戦は姉妹校の城西国際大学との試合だった。初回に四球とヒットで1点を先制されたが、城西大学は3回に反撃し、先頭の高下（経営4）がヒットで出塁すると続く、鷲沢（現代政策1）が盗打を決めた。連続四球で2死満塁となり、1番榎本（経営1）が走者一掃の3塁打を放ち逆転した。さらに6回に3本のヒットや四球を絡め、3点を挙げた。6対1でリードした7回、城西国際大学の反撃が始まり、4連打を浴びるも2点に抑え勝利した。

2回戦は清和大学。4回に1点を先制されたが、3回、4回と猛打を浴びせ、それぞれ3点、4点を挙げた。6回に1点を追加し、コールドゲームに。

翌日の山梨学院大学戦では2本のヒットで出だすランナーを内野ゴロの間に1人返すのがやっとだった。投げては前日2試合を4失点に抑えていた3年生のダブルエース金澤（現代政策3）が この日は良くなかった。3回から5回にホームランなどで1点ずつ失い、7回にも1点を失い合計4失点。結果4対1で敗戦した。しかし前日に2勝したことでインカレへの出場権を獲得した。男女同時出場は2年ぶりになるので、男女ともに好成績を期待したい。

**榎本 世界ジュニア出場**

**女子ソフトU19日本代表**

榎本千波

第10回世界女子ジュニアソフトボール選手権大会に、U19日本代表として、本学経営学部1年榎本千波が選出されている。7月1日からカナダ・プランプトンで16カ国が集結し世界一を争う。女子U19日本代表は、この大会で過去4回の優勝を飾るなど輝かしい実績を残しているが、今大会ではアメリカが大会史上初の3連覇に挑み、日本はその阻止を狙う。

## ゴルフ　関東大学対抗戦

# Bブロック昇格目指す

## 主力はプロ志望3兄弟

ゴルフ部は、関東大学対抗戦Bブロック昇格を目指して汗を流している。9人の部員のうち、主力として活躍が期待されているのが、主将の笠原瑞城（経営4）と弟の将揮（経営2）、悠揮（経営1）の3兄弟。兄弟が切磋琢磨してチーム力をアップさせれば、悲願達成は叶うはずだ。

5月15、16の両日、静岡県御殿場市の富士カントリークラブで行われた春季大会でプロック対抗戦は、6位に終わった。1チーム6人が出場して上位5人のトータルスコアで順位が決まり、1位がBブロックに昇格する。初日はまずまずの調子で、8チーム中5位ながら2位とは7打差につけた。しかし、2日目はスコアを伸ばせず、順位を落とした。

瑞城は「不甲斐ない思いだった。（チームに）力はあるが、流れが悪くなってくると、もろい面がある」と振り返る。将揮が「実力を発揮すればトップも狙えた。自分と悠揮のせいで差が開いた」と悔しがれば、悠揮も「初日がだめで2日目もずるずるいった。期待に応えられなかった」と反省の弁を語る。

左から三男将揮、長男瑞城、三男悠揮

川越市出身の3人は中学校のサイズでも同じ。3人ともプロ志望で、得意クラブは瑞城がパター、将揮がピッチング、悠揮がサンドウエッジと小技が得意だ。

秋季対抗戦は9月4、5日に地元・狭山市の東京ゴルフ倶楽部で行われる。瑞城は「学生として最後の団体戦となるので、有終の美を飾りたい。Bブロックに上がることとCブロックのメダリストの世界に入りたい」と意気込む。「2日間でアンダー（パー）の世界に入りたい」（将揮）、「ベストグロス（ベストスコア）を狙いたい」（悠揮）と、弟たちも春のリベンジを誓っている。

## 城西大

# 東京都と連携協定

## 五輪招致活動を振興

城西大学は、5月23日、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の招致を目指す東京都と連携協定を結んだ。この協定は、同大会招致を目標に、スポーツの分野を研究したり、オリンピアン・スポーツ指導者・スポーツ関係者を輩出する全国各地の大学と相互に連携・協力し、「人間教育と国際交流を通じて世界平和に貢献 するための教育や研究活動を行うことにより、オリンピック・ムーブメントを広く振興させることを目的としている。

第一回で協定を結んだ、筑波大学などの5大学に加えて、今回は城西大学のほかに東北大、早稲田大、関西大など27大学が新たに協定を結んだ。

城西大学からは白幡晶副学長や、卒業生で昨年陸上競技200㍍の日本学生チャンピオンに輝いた本塩遼選手（富士通）が締結式＝写真＝に参加した。

**記者の目**

## 選手と記者　両方の目で見たスポーツ

城西大学に入学した一番の理由は女子駅伝部に入るためだった。その願いがかない、駅伝ランナーとなった。全国の舞台を走ることは、とても貴重な経験だった。しかし、いまはJスポの編集・発行に加わり、新たな形でスポーツと関わることになった。

今まで陸上競技にしか目を向けてこなかったわたしにとって、一歩下がって見る陸上競技も、他のスポーツも新鮮だった。

多くの部の取材を通して思ったのは、どのスポーツも本当に大変だが、アスリートたちは、一つのことに青春の思い、情熱を注いでいるということだ。Jスポ記者になって、今まで知らなかったスポーツの苦労と楽しさを知ることができた。そして、表舞台と裏方の両方を経験し、支える苦労と楽しさも知った。

Jスポ編集部は、たくさんの方の協力を得て着々と前に進んでいるが、もっと飛躍のできる楽しみなチームだと思う。そんな素晴らしいチームの一員になれたこと、そして声をかけてくださった担当の先生に感謝したい気持ちでいっぱいだ。

実際に競技を行う選手とそれを取材する学生記者は、「セット」とも言うべきではないか。選手も経験し、記者もやれたことをうれしく思う。残りの大学生活、Jスポに力を注ぎながら、楽しいものにしたい。【伊藤香澄】

**取材スタッフ**

編集長 経営学部4年 久村 洋介
経営学部4年 伊藤 香澄
経営学部4年 中里 絵美
経営学部4年 大久保匡留
経営学部4年 服部 哲大
経営学部4年 萩原 洋輝
現代政策学部4年 小柳 寛和
経営学部3年 齊木ひろみ
経営学部3年 佐久間 綾
経営学部3年 知見寺美紀
薬学部3年 齋藤 明彦
薬学部3年 小峯 大輝
経営学部3年 関原 彩賀
経営学部2年 吉田 美咲
現代政策学部3年 野島 慧

**アドバイザー**

2012年度卒業 原 駿介
寺田 登
嶌 優紀
金子 亮
江田 悠真
2011年度卒業 千葉 史典
安富英里香

JスポFACEBOOK はこちら ▶ http://www.facebook.com/JOSAISPORTS

**健康相談** 保健センターから

## 熱中症　水分補給で予防を

熱中症は体が気温の上昇になれていない春から梅雨時期にもよく発生することがあります。特に「梅雨の晴れ間」で、無風状態、気温が上がっている時が要注意です。この時期は、湿度が高くて蒸し暑く、体調の管理も思うようにならない、という状況が続いています。水分の補給を行わず、長時間活動を続けると体温の上昇と脱水・循環不全を生じます。重症になれば、こん睡状態となり、死にもつながります。

熱中症は予防が大切です。スポーツをしている時は、こまめに水分をとり、たくさん汗をかいたら塩分の補給も忘れずに、適度に休息もとりましょう。日常の規則正しい生活、睡眠を充分とること、バランスの良い食事を取り熱中症を予防しましょう。

もし熱中症になってしまった場合、早期治療が最も重要です。大学内で運動をしていて、頭がボーとしたり、吐き気、立ちくらみなどの症状が出たら、涼しい場所に移動し足を高くして休みましょう。症状が改善されない場合は、保健センターに連絡してください。症状が悪化している場合は、救急車で医療機関に搬送することもあります。

保健センターでは、夏合宿参加者を対象に健康検査を実施します。合宿での事故を防ぐためにも受けるようにしましょう。期間は、7月17日まで。【保健センター・小西】

# 山口 3000メートル障害4連覇 史上2人目の快挙

## 陸上 関東インカレ

## 7年連続1部残留

第92回関東陸上競技対校選手権大会（関東インカレ）が5月18、19、25、26日に国立競技場と日産スタジアムで開催され、城西大学は総合得点36点の14位で7年連続の1部残留を果たした。男子では3000㍍障害で山口浩勢（経営4）が史上2人目となる4連覇を達成、また第百の1万㍍で6位、800㍍では平塚祐介（経営2）が3位、野川大地（経営4）が100㍍で6位、割田仁志（経営4）が1万㍍競歩で6位、400㍍リレーで7位、相山征之（経営4）が400㍍で8位、女子では田碧ちひろ（経営3）が100㍍ハードルで6位、橋本奈海（経営4）が1万㍍で6位とそれぞれ入賞を果たした。全体として4年生の活躍が目立った。【知見寺美紀、写真も】

▲3000㍍障害を1位でゴールする山口

▶優勝カップを手に笑顔の山口（中央）



800㍍で3位で表彰台を勝ち取った平塚（右）

### 平塚 800メートルで3位

平塚は昨年、関東インカレ7位で入賞しており、今回も活躍が期待されていた。予選、準決勝を順調に通過し決勝進出。決勝では0・01秒差で表彰台を勝ち取った。「日本の最高峰の試合で自分の理想の走りや理想の結果を残すことができなかった。この悔しさをバネにまた頑張っていこうと思います」と話す。

昨年は5000㍍にも挑戦し14分40秒台をマークしている。今後の800㍍、長距離での活躍も期待したい。【吉田美咲】

3000㍍障害に出場した山口は、昨年の同大会で3連覇を達成した際には早くも「4連覇が目標」としていた。「昨年に比べると緊張していなかった」と語り序盤から積極的にレースを進めていく。ラスト1周で東洋大学の小池寛朗選手と競り合うがホームストレートに入り引き離し、ユニフォームの「JU」の文字をアピールするようにフィニッシュ。自己ベストを3秒近く縮める8分41秒93での優勝に「思った以上の結果」と胸を張り、男子駅伝部主将としての責任を果たした。主将の快挙に表彰式では男子駅伝部員から多くの声援が飛んでいた。

### 陸上 日本選手権 5選手が出場

8月にロシア・モスクワで行われる陸上世界選手権の代表選考会となる第97回日本陸上競技選手権大会が6月7～9日に東京都味の素スタジアムで開催され、城西大学からは800㍍に平塚祐介（経営2）、1500㍍に田啓介（経営4）、5000㍍に村山紘太（経営3）の5選手が出場した。

日本選手権での優勝を目標にしていた山口は3000㍍障害に出場。過去の優勝タイムから自己ベストを出さないと優勝できない状況で序盤から積極的にレースを進め、ラスト1周を4番目と表彰台が狙える位置で通過した。しかし第2障害に足を引っかけ転倒。身体を強く打ちつけ足は大きく腫れ上がった。それでも山口は走れない状況でも障害をまたぎながらフィニッシュを目指した。記録は9分45秒86と自己ベストから1分以上遅いタイムだったが必死に走ろうとする姿に多くの人が心を打たれた。

---

城西OB プロ野球

ヤクルトスワローズ
**比屋根渉外野手**

## 俊足生かし活躍

比屋根渉というプロ野球選手がいる。沖縄県出身で沖縄尚学高校から城西大学、日本製紙石巻野球部を経て現在は東京ヤクルトスワローズに所属する外野手である。

城西大学時代は1番打者として活躍し、4年時の首都大学秋季リーグでは4割2分1厘で首位打者を獲得。在籍4年間でベストナインに3回選出された。プレースタイルは50㍍5秒95の俊足を生かした走塁と守備で主にセンターを守る。大学卒業後の社会人時代にパンチ力のある打撃を身につけた。東日本大震災で練習場が被災し練習できない日が続いたが同年のプロ野球ドラフト会議でヤクルトから3位指名を受け入団した。プロ入団後は俊足を買われ代走などでの出場が多い。昨年沖縄県で行われた凱旋試合で盗塁を記録するなど1年目から活躍している。

しかしプロ通算で出場試合数が75（6月17日交流戦終了時点）とポジションを勝ち取れてはいない。ヤクルトはメジャーリーグ・ブルワーズに移籍した青木宣親の後継者としてセンターを守る選手がなかなか固定できていない。今シーズンは昨年よりも出場機会が多くなっており、得意とする走塁などでアピールしセンターのポジションをつかみたいところである。またヤクルトは7月1日現在セントラルリーグで最下位に低迷している。自力優勝の可能性が消滅するなど好材料が見えない中で、比屋根ら若手選手の活躍が期待される。【知見寺美紀】

■OBでプロ野球選手として活躍する選手
阿南徹（投手、読売ジャイアンツ所属）、川井貴志（投手、東北楽天ゴールデンイーグルス所属）、竹原直隆（外野手、オリックスバファローズ所属）、中山慎也（投手、オリックスバファローズ所属）、渡辺直人（内野手、横浜DeNAベイスターズ所属）

---

## 薬学連盟大会で総合優勝の実績

### 先輩後輩 勉強も支え合う

注目！ 薬学スキー同好会

城西大学薬学部で勉学に励む一方、大会で好成績を残している薬学スキー同好会に注目した。

主な活動として、週に1回部員たちでの情報交換、月1回体育館で体が鈍らないようにトレーニングをしている。このスケジュールなら勉強に支障がなく運動ができる。しかし、月1回程度の運動では到底大会で好成績は残せないが、そこで夏休み、冬休みの長期間の休みを利用しコーチを招き合宿を開催し、3月に開催される薬学連盟大会に臨み次も総合優勝を目指すと語っていた。この大会には、薬学系の大学約10校程度が集まり、個々のスキー技術を競い合う。種目は旗の間を滑る回転（SL）、大回転（GSL）、スーパー大回転（SuGSL）といった種目をこなし、それぞれの順位を得点化して総合得点が高い学校が優勝となる。

前回の大会では男子3位、女子1位、総合では1位を獲得した。「今回こそは男子、女子そして総合で1位を取りたい」と選手たちは語る。

薬学では特に先輩、後輩の関係が重要であるという。下級生には、テストの情報や難しい科目などを先輩たちが教えるなどしている。オリエンテーションを開催し先輩、後輩との仲も重視している。最後に選手たちは「医療人としての心を常に持ち、大学や社会に貢献していきたい」と薬学生としての心構えを述べた。【齋藤明彦、小峯大輝】

---

東都大学準硬式野球 春季リーグ戦

## 2部昇格逃す

4月から5月にかけて東都大学準硬式野球春季リーグ戦が行われた。結果は惜しくも2位となり、2部に昇格することができなかった。一球、一点の重みを感じる結果となった。詰めが甘かったところが反省点だが、チーム一丸となって戦えたのは良かった。9月から始まる秋季リーグ戦の目標は、2部昇格だ。成長している姿とり部昇格を期待したい。【伊藤孝澄、関原彩賀】

---

剣道 関東学生選手権

## 個人戦 振るわず

練習は週6日、2時間行い、基本稽古から始まって打ち込み稽古まで、日々熱の入った練習を重ねている。部員26人で活動をしている。

5月の関東学生選手権では、個人戦で惜しくも上位の成績を収めることができなかったが9月に行われる関東学生選手権の団体戦を控えているので、そこで上位入賞、全国大会に出場するため、日々稽古に励んでいる。

部員の根本貴弘（経営4）は、「努力をしても報われないこともあるが、努力をしなければ報われない、という気持ちで、一人一人が成長できるよう、これからも稽古に精進していきたい」と話す。【中里絵美】

◆第59回 関東学生剣道選手権大会
根本貴弘（経営4年）4回戦敗退
三橋史典（経営3年）1回戦敗退
篠　宏成（経営2年）3回戦敗退
矢守優也（経営2年）1回戦敗退
齊藤凌篤（経営1年）2回戦敗退

◆第45回 関東女子学生剣道選手権大会
梅澤希帆（経営3年）1回戦敗退
羽田諭実（薬学2年）1回戦敗退
鈴木沙弥（薬学1年）1回戦敗退

---

日本学生陸上競技個人選手権

## 100メートル 野川 準優勝

### 1万メートル競歩 割田は3位

6月21～23日にUSCmon Japan日産スタジアム平塚で開催された日本学生陸上競技個人選手権で、野川大地（経営4）が100㍍で10秒37の自己ベストで準優勝した。また、男子1万㍍競歩では、割田仁志（経営4）が3位入賞を果たした。いずれも高校時代は目立った成績の出ない2人であるが、城西へ入学後、地道に実力をつけ、初の全国大会入賞を勝ち取った。

---

バレーボール

## 秋に照準 新戦力に期待

バレーボール部は関東4部リーグに属している。主将の皆川寿博がチームを先導し、1年生7人、2年生3人、3年生3人、4年生6人の計19人での活動を行っている。

今のところ、秋のリーグ戦に照準を合わせて日々の練習を積み重ねている。1年生に有望な選手が多く、その活躍はチームの雰囲気に影響を与えるものだそうだ。チームワークが非常によく、これからの新戦力に期待して城西大バレーボール部を応援してほしい。【久村洋介】

---

Column スポーツ界の倫理について

## 体罰とハラスメント

経営学部助教　**山口理恵子**（姉妹校・UCリバーサイド校で研修生を指導）

2012年12月、大阪市の高校に通うバスケットボール部の部員が自殺したという報道が日本から飛び込んできた。「部活動顧問からの体罰が自殺の一因」と報じられ、バスケット部以外の部活動でも体罰が横行していたことも発覚した。その翌月、女子柔道強化選手が、監督の暴力問題を告発したというニュースが取り上げられた。2月1日には、内柴正人元五輪メダリストの実刑判決が確定した（即日控訴）。さらに柔道界では、助成金不正問題も発覚し、5月には女性に対するわいせつ行為で柔道連盟現職理事が告発され、連盟を永久追放されている。五輪でメダルを量産していた柔道が成績不振に陥っていた背景に、このような組織の劣悪体質を見るのは私だけではないはずだ。国際的なスポーツとなった「JUDO」で、体罰を含む旧態依然とした指導が、トップレベルの選手に対しておこなわれていたのにも驚いた。

報道されるこうした体罰やセクシュアルハラスメント、性暴力は「氷山の一角」であり、これまで何度となく大きく報じられながら、一向に解決した気配を見せない。それはなぜか。

身体を用いるスポーツでは、アスリート自身が「トレーニングで体をいじめる」と発言したり、実際に肉体的苦痛を伴うトレーニングも多い。これに乗じて、「肉体的苦痛を伴う懲戒」としての体罰がおこなわれやすく、正当化されやすい。体罰がスポーツ指導において必要悪と考えられてしまう。体罰は、指導者と選手との間に、圧倒的な力関係を生み出すため、セクシュアルハラスメントにもつながりやすい。被害を訴え出にくい。

しかし体罰は暴力である。「体罰は愛情だ」などと体罰を容認する指導者は、科学的かつ論理的に指導することができない自身の指導力の低さを露呈している。また「子どもは殴られて強くなる」と信じている保護者が、指導者の暴力を加速させてしまう。さらに「殴られてガマンしたから強くなった」と信じているアスリートも少なくない。

指導者の暴力が原因で大好きなスポーツを辞めたという学生たちに多く出会ってきた。順天堂大学が平成22年度におこなった大規模調査では、特に女子において、ハラスメントを理由にスポーツを辞めている傾向が高いこともわかった。若者がこのような理由でスポーツを辞めてしまうという事態は、日本スポーツ界全体の底上げにとっては危機的状況なのだ。多くのスポーツ先進国では、暴力を用いる指導者にはっきりと「NO」と言っている。このままでは、日本だけグローバルスタンダードから取り残されていく可能性もある。

エンパワーメント・センター主宰の森田ゆり氏は、体罰について以下の六つを指摘する。①体罰をしている者の感情のはけ口であることが多い②恐怖感を与えることで体罰を受ける側の言動をコントロールする方法である③即効性があるので他の指導方法がわからなくなる④しばしばエスカレートする⑤それを見ている周りの者にも深い心理的ダメージを与える⑥時に取り返しのつかない事故を引き起こす。

体罰を擁護する前に、これらのリスクをあらためて考えてほしい。独りよがりの「愛情」行為が、人の命を奪ってしまう可能性もあることを。

---

Column 日本男子スプリント

## 9秒台突入は目前

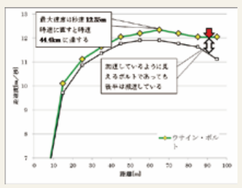
### 桐生選手に注目

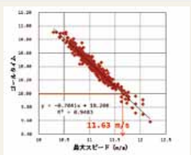
経営学部准教授　**土江寛裕**

陸上競技、日本の男子スプリントが、かつてないほどの注目を集めている。桐生祥秀選手（京都・洛南高校）の登場によって、いよいよ日本人にも、しかも高校生によって10秒の重い扉をこじ開ける日が来るのではと期待されているからである。世界は9秒台に突入して久しい。今から約半世紀前の1968年のメキシコオリンピックでジム・ハインズ（米国）が10秒の壁を突破した。2009年には、ジャマイカのウサイン・ボルトによって9秒58というとてつもない記録にまで達している。

ボルトの走りをみなさんも見たことがあると思うが、特に半分を過ぎたあたりから加速して他を引き離しているように見えるだろう。図1はボルトが9秒58の驚異的な世界新を出したときの走スピードの変化を表したものであるが、ボルトであっても、後半伸びて加速しているわけではなく、確実に減速しているのである。2位の選手の速度の変化と合わせてみると、中間以降、常にボルトの速度が2位の選手より上回っていることがわかる。常に速度が大きいということは、2人の差がどんどん広がっていくことになり、相対的にボルトが伸びているように見えるのである。そしてこの時のボルトの最大スピードは秒速12.35㍍であった。時速に直すと44.4㌔というスピードである。これはこれまで数多くのレースで観測されたデータの中で最も速いスピードである。実は100㍍にとって、後半の伸びや、スタートダッシュの鋭さよりも、この最大スピードが一番重要であり、記録を左右するのである。図2は最大スピードとゴールタイムの関係を表しているが、この二つの数値はきれいに一直線の関係にある。それは最大スピードの速さでタイムがほぼ決まるということを意味する。100㍍のスプリンターは、日々この最大スピードを大きくすることを追求しているといっても過言ではない。

話は日本人のスプリンターに戻るが、図2の回帰直線から逆算すると、9秒台に必要な最大スピードは秒速11.63㍍。高校生スプリンターの桐生君が10秒01の世界ジュニア新記録をマークした時の最大スピードは秒速11.63㍍（日本陸連科学委員会）である。筆者独自の分析では、その時のピッチは5.0歩／秒、ストライドが2㍍33㌢。仮にストライドがたった1㌢伸びただけで、秒速11.68㍍に達し、ゴールタイムは推定9秒98～99となる。すでに9秒台突入まで誤差範囲のところまで来ている。すでに日本人の9秒台突入は時間の問題、いつ出てもおかしくないのである。




（上）図1　世界陸上ベルリン大会（2009年）にボルトが9秒58をマークした時のスピード変化（国際陸連発表）
（下）図2　最大スピードとゴールタイムの関係